

活動発表会を「泉」に

第三回全国大会準備委員会

活動発表会部 黒萩道義

明日の友愛運動 明日の活動の泉」にこの活動発表会がないほどの第二回に開催される活動発表会に対する実施担当者としての私の期待です。

「活動発表会」といふ言葉が出されたのは、昨年の三回全国大

会の前であります。企画会の機能

二重性が指摘されたのです。

そのため、参加者の意識や活動への認識の大変な差が生ま

れ、最も重要な法規機能が弱めら

れる原因があるのではないかと

れた。一方、情報交換についても短い日程の中で豊富なその

機能を生かしません。参加者たち

の足りないを残す結果になってしま

うした経緯から二つの機能

をうまく分離して行くとの考

えから「活動発表会」が誕生する

ことになりました。そして、

第一回の今年度は、全国大会を

活動発表会を開催してそれを意

味と機能の違いを参加者理解し

て、今回の発表会は予想通り

独立した一本の行事にしてやぐ

ですから……。

しかし、それだけに重要なもの

があります。今回発表会を支

部のやり方で、以後見本になり

ます。活動発表会は、本部の提案

を策定するのもしない、完全無

欠の行事であるませよ。そし

て、私が選ぶ方法

はどんな問題があるか、「彼

に似て、それが独自のアロ

グリを立てて取り組むことな

ります。そこで、その共通課題

に似て、それを私が独自のアロ

グリを立てて取り組むことな

ります。私は運営する組織

であります。一方、私が選ぶ方法

はあります。そこで、その共通課題

に似て、それを私が独自のアロ

グリを立てて取り組むことな

ります。私は運営する組織

であります。そこで、その共通課題

に似て、それを私が独自のアロ

